

本澤二郎のブログ

2024年7月14日(日)

本澤二郎の「日本の風景」(5224)

< 貧困大国の象徴 = こども食堂急増 = 日本政治最大の恥部 >

民間のNPO法人の調査に泣いてしまう。多くの国民が心を痛めている日本の貧困。この10年で日本はOECD加盟国最低の国に落ち込んで、その結果、外国の観光客目当ての稼ぎに必死である。1980年代のバブル経済がまるで嘘だったかのような経済衰退国。ものづくり大国・経済大国は、昔々の思い出になってしまった。

そして為政者として最も恥ずべき貧困大国へ。同窓会での友人の言葉を思い出した。中曽根バブル崩壊後のことだった。「何年辛抱すれば、また経済大国に戻れるだろうか」の言葉に正直びっくりしたが、国民はまた経済大国に戻れると信じていた。彼は財閥企業の社員だった。夢幻を見ていたのであろう。嘘をたれ流す学者本に騙される国民も多かった。いま胸を張れる経済学者がいるだろうか。いるわけがない。

広大な領土を有する大国の惨状に旅人は驚いて、YouTube動画に流し、小遣い稼ぎをする若者も出てきている。かの複数の大国は、いずれも武器弾薬製造大国だ。現に核超大国は、それを使用している人殺し大国でもある。そこに駆け込むウクライナやイスラエルが存在する！いよいよ米国発の景気後退が始まってきた！どうする株屋に成り下がった日本の中央銀行と、それに舞い上がってきた財閥と一部の金持ちが、政府をおだてて庶民の財布に手を突っ込む悪政を大々的に始めた。狂気の沙汰ではないか。

「こども食堂は2016年319箇所、2023年には9131箇所」という数字に腰を抜かす日本国民は多い。それでいて日本政府を代表する岸田文雄は、戦争当事国のウクライナに大金を送り続けている。正常な心の持ち主である日本国民・主権者は、断じて容認しない。大反対である。戦争を長引かせ、その分、人の命を奪っていく。こんな不条理を許容できるだろうか。

< 人殺しの武器弾薬費用43兆円中止で全面解消 = 政府の責任 >

こども食堂という言葉を知ったのは、3年ほど前か。田舎だとそんな施設はないらしいと思っていたが、なんと公民館の掲示板に出ていた。木更津市の片田舎・山村にも存在していた。9131箇所に納得した。

この国に野党は存在しないのであろうか？

人殺しの武器弾薬費用43兆円を即座に中止すれば、9131箇所のこども食堂は不要である。役所の無駄は、いたるところにある。大掛かりな行財政政策を国と地方で実施するだけでも、こども食堂の費用はねん出できる。岸田のウサギの耳は、善行には閉じられて聞こえないのであろうか。日本最悪の不条理に目を向けない自公内閣は、政権政党失格であろう。

岸田の後継者を狙う、ずるがしこいいかさま政治屋の面々からも、こども食堂のことが聞こえてこない。福祉に熱心だったカルト教団の政党も無関心らしい。神道は全国の自治会・町内会の公金を巻き上げて、それを貧者に配るところか盗み出すと、配下の警察は100円でも速

捕する。カルト教団は貧者救済に無関心である。神道や創価学会は、家を失った貧者に宿と食事を与えてはどうか。43兆円をやめて貧者救済に回すよう自公政府におねだりしてはどうか。

<改憲軍拡の自公政権を打倒すれば即決着>

43兆円を人殺しのために使用するような政府は、百害あって一利なし。コロナワクチン注射の乱用で「40万人の日本人が亡くなっている」と専門家は指摘している。身内に「突然死」したことに、身を切られるような体験者は少なくない。

それでも不足とばかり、今度は戦争で人を殺す為政者ばかりの世界ではないか。その殺人国家の仲間に日本政府も入っている。それを見逃す野党と言論界に言葉も出ない。都知事選に絡んで、今も蓮舫や何とかという若者が話題になっている。意図的に作られた人気に価値などあろうか。蓮舫は嘘つきの野田佳彦にぶら下がっていては政治家失格である。松下政経塾は真っ当な政治塾とは言えない。松下幸之助は好戦派の民族主義者であろう。誤魔化されてはいけない。

<安倍・菅・岸田の極右・米ポチ返上し、護憲リベラル政権へ>

戦後79年、あと1年で80年になる。日本が立派な平和憲法を定着させる時である。死の商人のための改憲軍拡を食い止めて護憲リベラルの平和路線に舵を切る時である。

世界の戦争は、その時であることを教えている。護憲リベラルが、この国の前途に希望を与えてくれる。軍艦を捨て去って帆船・日本丸がいいに決まっている。中立国でもある。

2024年7月14日記(茅野村の憲法仙人・日本記者クラブ会員・やくざ暴力団追放国民会議)

戦争は中止！狂った為政者はいらない！

ウクライナのゼレンスキーは、米国で「求めているのは、町を守るための防空システムや武器だ」と叫んだ！

本澤二郎の「日本の風景」(5225)

<TBS 山口強姦魔に屈しなかった伊藤詩織さんの元気な姿！>

アメリカでは共和党の若い支持者が、演説中のトランプをライフル銃で襲撃するという、2年前の安倍晋三事件を連想させる事件が起きたが、弾は右耳を貫通しただけで済んだ。犯人は狙撃手ではなかった。物騒な世の中は、全世界的な現象か。「政治は命がけの仕事」という宇都宮徳馬の言葉を思い出した。民主主義が問われているのだろうか。

昨日はいい映像を見た。TBS 強姦魔に襲われた伊藤詩織さんが、元気な姿を見せて支援者の前で笑顔を振りまいていた。改めて彼女の勇気ある刑事告訴に敬意を表したい。実際は、警視庁刑事部長の中村格によって、逮捕状執行を阻止されるという違法行為で、強姦魔は逮捕を免れた。

強姦は殺人に相当する。警視庁は強姦証拠を固めて裁判所に請求し、判事が逮捕状を用意したのだが。司法の正式な手続きをもみ消した中村格。その結果、犯罪者となった刑事部長が警察の最高責任者の地位(警察庁長官)を手にした！3流・5流の日本を露呈した。

<悪党は安倍晋三と菅義偉と中村格！>

「健康で幸せな生活を送るには、よい人間関係が必要だ」とする研究結果が出たという。山口強姦魔のワルの人間関係は、当時の首相・安倍晋三と官房長官の菅義偉。行政府のトップが強姦事件をもみ消した！この真実は消えない。消してはならない。

日本は法治国家ではなかった！言論界も国権の最高機関の国会も裁判所も沈黙した。恐ろしい日本に驚愕した日本人は多い。TBS山口強姦魔事件は、ワシントンやロンドンでも大きく報道された。菅も中村も生きている限り、この犯罪事実から逃げることは出来ない。

<伊藤さんの勇気と狂った山口と倫理観の薄い弁護士>

日本の法治主義のいい加減さに驚いた法律家は、ほとんどであったろうが、彼らは立ち上がって声を上げなかった。不思議な日本の法律家である。情けないことに凡人ジャーナリストも、本ブログ発信で警鐘を鳴らすだけしか力がなかった。

<TBSはケジメをつけよ！＝欧米社会も記憶>

せめてTBSという報道組織体は、強姦魔に対する厳格なケジメが必要である。有能なジャーナリストを多数輩出してきた伝統のあるTBSではないか。今からでもいい。ケジメをつけよ！

このジャーナリストの強姦事件は、日本政府によってもみ消されたが、欧米の言論界で注目を集めた。

日本の恥部としてこれからの日本問題を考えるモノサシになる。残念の極みである。

<やくざ暴力団が跋扈する「木更津レイプ殺人事件」被害者・戦争遺児は非業の死＝110番通報不可>

伊藤詩織さん事件に関心を抱く理由は、山口が言論界に所属していたということだけではない。足元のやくざのメッカ・木更津市のやくざ暴力団の浜名に強姦・性奴隷を強いられ、非業の死を遂げた戦争遺児のことと関係がある。

3本指の入れ墨やくざが市民に姿を変え、介護施設「かけはし」を経営していた。そこに栄養士の戦争遺児をアルバイトに招き入れ、甘言を用いて、一人住まいの瀟洒な自宅に飛び込んで、この世の地獄のような恐ろしい事件が起きた。即座に110番通報をすれば命を奪われることはなかったろうが、やくざの手口は親族への脅しをちらつかせて、被害者を精神的に身動きできないようにさせる。血も涙もないやくざの手口だ。

加害者も被害者も公明党創価学会の信者だった。被害者はドーカツ殺人される寸前に「浜名はやくざ」と知り合いに告白したが、間に合わなかった。「ばらすぞ」の意味がどういうことか理解できれば、死因がわかる。突発性の大動脈りゅう破裂で非業の死を遂げてしまった。伊藤さんのような勇気が、相手が入れ墨3本指のやくざでは、出なかったためである。

<やくざと警察は仲間？告発状もみ消した木更津署の犯罪>

99%事件は判明したのだが、創価学会関係者が突如として口を閉じた。公明党が動いた可能性がある。まさか中村格ではないだろう

が、警察の犯罪もみ消しは日常茶飯事であることも分かってきた。

やくざがらみの強姦殺人事件に親族は逃亡し、姿を隠している。墓地も掘り返し、地元中学校前の旧宅は、夏草に覆われて、バラで着飾っていた瀟洒な住宅が見るも無残な姿に変貌してしまった。数か月前には火事もあった。

血も涙もないやくざと警察は、グルであることも分かってきた。強姦魔のやくざ浜名の介護施設「かけはし」は今も存在している。恐ろしいやくざが跋扈する事件追及が、伊藤詩織さんの被害に関心が移る理由である。日本の政府も警察も狂っている。それでも告発はしなければならない。詩織さんの笑顔がそれを裏付けている。美人栄養士のK・T子さん殺人事件解決に、全国民が救済の手を貸してもらいたい。犯人も特定している。ブラックボックスにしてはならない。

目下、袖ヶ浦市の水源地にフクシマの核汚染ごみを不法投棄した産廃業者の実動舞台が、地元の調査でやくざ暴力団だと判明したことも、不正追及の原動力である。房総半島に希望の火を灯すには、やくざ暴力団追放国会議の活動が不可欠である。伊藤さんの勇気が房総半島にも必要である。

2024年7月15日記(茅野村の憲法仙人・日本記者クラブ会員)

2017年10月24日、日本外国特派員協会で、ジャーナリストの伊藤詩織氏が元TBS記者の山口敬之氏から性的暴行を受けたと会見を開いた。その後、しばらく事件の報道が過熱し、伊藤氏と山口氏の両サイドが様々な情報を発信した。山口氏との裁判の後にも、伊藤氏は、SNS上での誹謗中傷に対して提訴している。伊藤氏をめぐる一連の裁判はその後どうなったのだろうか。7月9日、「伊藤詩織さんの裁判報告会」が都内で行われた。主催者は『伊藤詩織さんの民事裁判を支える会 Open the Black Box』。(長野 光:ビデオジャーナリスト)

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の政治団体「国際勝共連合」が7月13日、東京都千代田区で集会を開いた。講演した梶栗正義会長は、6年前は現職の国会議員が約50人来たと明かしたが、今回はほぼ姿はなく、2022年の安倍晋三元首相銃撃事件後の「関係断絶宣言」の影響が見えた。安倍氏については「日本が(国際社会で)リーダーシップを示すことができる」と教えてくれた」と生前の関係の深さをうかがわせた。

神奈川県警の元巡査部長が暴露した“警察の裏の顔”「ノルマのために、しょうもない検挙をしていました」

元神奈川県警巡査部長。山形県出身。18年間、神奈川県警に勤務し、退職。現在は、よっしー部長の名でYouTubeを中心に「警察組織の裏の顔」を発信。最近、警察官の行きすぎた職質動画がSNSに拡散されていますが、その警察官たちだって、ある面では被害者です。数字に追われると、なぜ警察官になったのかさえわからなくなる。点数至上主義は、すべての警察官を狂わせます」

本澤二郎の「日本の風景」(5223)

<イムジン河=むくげ=東洋思想の生命学>

関東は梅雨明けに向けた梅雨空がしばらく続く。その先の猛暑はどうか？庭先に「朝鮮の花」と言われているむくげ(木槿)が美しく咲いている。真っ白い花びらに薄いピンクの液

体をうっすらと撒いた涼しげな感じで、見事に猛暑に立ち向かってイキイキとしている。長寿の花でもある。

最近不思議なことにパソコンのYouTubeに「イムジン河」という初めて知った歌が登場した。聞いてみた。切なくも悲しい、そして美しい曲である。すぐ好きになった。朝鮮半島の南北38度線を隔てる国境沿いに流れる河川という。望郷の歌でもある。北京にも故宮を望む地区に「望郷」がある。そこには朝鮮族が多く住んでいる。

日本人にもつらい曲である。南北分断の遠因は、戦前の日本が朝鮮を併合・植民地支配したことにある。その天皇制国家主義が、安倍内閣で花火を上げ、現在もその片鱗を見せつけている。日本人の罪は計り知れないほど重い。

優雅なユリのカサブランカも咲き始めた。咲いて散るのも早い。木槿は違う。暑さをものともせず日本列島で咲く。在日朝鮮・韓国人の「望郷に花」に思いが詰め込まれている？近年は西洋の科学・医学の限界が話題になり、東洋思想や東洋医学への関心が集まっている。今では韓国や台湾などで漢方医学が注目を集めている。

<西洋科学の限界＝農薬による食べ物＝自然・地球破壊>

「科学者たちの警告:人類は2024年に自滅の危機に直面している」ー。こんな見出しが本日のネットに登場した。円激安と物価の急騰と、景気後退による世界恐慌を予感させている。円刷りまくりの10年！異常な株高にも赤ランプがついた。

核戦争の危機も続いている。核大国の政治指導者の資質の劣化が、人類を不安に陥れて久しい。危険すぎる潮流に掉さず岸田文雄の改憲軍拡ラッパも、人々に恐怖を募らせている。思想哲学医学などの分野で「入東洋」は人類の耳目を集めている。脱欧米は経済の血液であるドル紙幣や農薬農業など限界がきている。がん治療一つとってみても西洋医学は、壁にぶつかっていかんともしがたい。

<東洋医学は生命・人間学＝思想は平和学＝見えない精神分野も漢方の視点>

徐々に理解してきたことを披歴したい。「台湾人気の一つが漢方医学」という。全く知らなかったことだが、台湾には中国文化がそっくり残っているという。その一つが漢方医学。数千年かけて蓄積された予防医学である。

そのヒントをくれたのは稲葉修の次女。代々村上藩(新潟県)の御殿医だった稲葉家では「医師は病気を治せない。病気にならないように生活する」と教えられてきたというのだ。そういえば、妻の実家の広岡家も、富山・前田藩の御殿医だと妻の母親に教えられた。

日本でも中国伝来の漢方医が幅を利かせていたのである。取って代わったのが西洋の手術優先の医療だが、病原を切除しても転位するがんを治癒できない。

御存知「病は気から」である。悩み・悲しみが病気の原因だが、したがって形に見えない精神的な治療が、西洋医学の弱点である。漢方医は、病の寄って来る原因にもメスを入れる。したがって、それは幅広い知見を必要とする。

天文学・地政学・哲学・思想などあらゆる見えない分野から、病の原因を探り当てる。したがって漢方医の家系は数世代、数十世代にわたって伝授される。いまでは革命の地となった中国では、名医は少ない。「台湾にはいるらしい」というのである。

病は思想や哲学にも及ぶ。それこそ人間学であり、生命学である。大陸の儒学・道学・仏学はすべからく人間を救う学問。平和学である。日本の国家神道のような戦争カルト宗教と異なる。競争させる相撲や弓矢の争いは、平和学から排除される。東洋思想には争いの哲学思想はない。例えば孫子の兵法は「闘わずして勝つ」である。

<人殺しをしない、させない東洋思想・文化>

人々はイスラエル・ユダヤに対して本心から怒りを覚えている。涙を流す女性にも出会った。ガザの空爆で犬や猫のように、無辜の民が無数虐殺されている。

超核軍事大国のアメリカの支援が、そうした歪行を繰り広げている原因だ。日本もワシントンに配慮してイスラエルに文句ひとつ言えない。日本属国も悲劇だが、ガザのパレスチナ人の無念を外交で主張できない日本政府は、まともではない。

キリスト教も争いの宗教なのか。日本の神道も。人を殺さない思想哲学が、東洋思想哲学である。平和軍縮派の宇都宮徳馬が生前よく言っていたことの一つに「中国思想は深い。日本人は勉強すべきだ」と。全くである。人殺しをしない非戦の東洋思想をしっかりと学ぶ必要がある。松本英子を学べ、である。

朝鮮半島もそうして平和統一すべきだ。台湾と中国も。東洋思想で世界をまとめ上げることが、地球・人類の存続を約束する。日本も漢方医学を徹底的に学んだらいい。「がんは不治の病」ではない。「不治のがん」は西洋医学の限界を裏付けている。

木槿の美しさに感謝したい。歴史の教訓を伝えてくれる。イムジン河のことや、日本で暮らす朝鮮・韓国人が手を取り合って南北統一を実現してもらいたい。そのための努力をする日本人でありたい。

2024年7月13日記(茅野村の憲法仙人・日本記者クラブ会員・東洋哲学研究家)

危ない防衛省＝自衛隊幹部の靖国参拝不問は重罪！

(FNN)防衛省は、自衛隊員による「特定秘密」の不適切な取り扱いや、潜水手当の不正受給などを受け、防衛事務次官や陸海空自衛隊の各トップを含むのべ220人、重複を除くと218人の処分を発表した。処分対象となった事案は「特定秘密漏えい」「潜水手当不正受給」「不正喫食」「内局幹部によるパワハラ」の4事案と、これらに関する幹部の「指揮監義務違反」。

法務省大失態＝黒川定年延長問題

(読売)黒川弘務・元東京高検検事長の定年を延長した2020年の閣議決定を巡り、法務省内で協議した文書の不開示決定を取り消した1審・大阪地裁判決について、小泉法相は12日の閣議後記者会見で、国側が控訴を見送ったことを明らかにした。控訴期限は11日だった。原告の上脇博之・神戸学院大教授も控訴しなかったため、判決が確定した。

もんじゅ西村謀殺裁判・御支援各位 様

2024年、西村裁判◆ ◆が進行中で、被告と訴訟名は其々別です。

御多忙中のところ、傍聴宜しくお願い致します。

.....

もんじゅ・西村裁判 ◆(行政裁判)

日時: 2024年8月20日(火)13:40～

場所: 東京地裁 803号

訴訟名: 個人情報審査請求棄却取消(行政裁判)

中央署は「1996.1.13, 早朝、西村はセンターホテル東京 8 階非常階段から飛び降り自殺し、大畑理事が西村の俯せ遺体を発見し通報した」と発表した。しかし、遺体は 8 階から飛び降り自殺の損傷が全く無かった。東京都に西村の不審死の個人情報開示請求(捜査報告書、実況見分調書、死体取扱報告書、写真撮影報告書)を申請したが棄却した。その取り消し訴訟である。現在、被告は上記の個人情報の文書保存期間は過ぎたので廃棄したと主張、文書保存期間が問題になっている。被告: 東京都 原告: 西村

本澤二郎の「日本の風景」(5222)

＜またまた軍拡破憲行脚の岸田文雄=NATOの手先か＞

二世、三世の世襲議員のなれの果てか? 宏池会を知る凡人ジャーナリストは、為替の安定・軍備縮小や国民負担の軽減など国民目線の政策推進など護憲レベルを基軸にした岸田政治を期待した。歴代のリーダーは、戦前派閥の軍拡や破憲行為とは無縁だったのだから。いま宏池会を語れる評論家もジャーナリストもない。寂しい限りだが、戦後の自民党政治は宏池会政治が自民党を主導してきたともいえる。だが宏池会の岸田文雄が、護憲レベルの衣を脱ぎ捨てて、鎧兜で身を包んでワシントンのポチ、NATOのポチを演じて、死の商人を小躍りさせている!

野党が存在感を示せる時だが、現状は宏池会レベルの「護憲レベル」の立場さえも国民に示せないでいる。7月7日の都知事選で経歴詐称知事に屈するという予想外の敗北に、党内は打ちひしがられている。庶民をいびる消費税を、嘘をついて増税した松下政経塾の野田佳彦の配下を擁立するという戦略ミスさえも気付いていない。

岸田は例によつて贅沢三昧の政府専用機でワシントンに乗り込んで、11月大統領選で敗色濃厚の観測が強まり、意気消沈するバイデン大統領の激励に励んでいる。国際政治においては珍しい対応である。相変わらず、日本外交に自主独立の気概はゼロだ。霞が関に気骨ある人物がいない証拠でもある。

まともな政治リーダーであれば、何よりも二つの戦争を中止するための努力が求められている。実際はバイデン・NATOの側に食らいついて、ロシアとパレスチナを叩いている。日本国民の貧困救済よりも、そこに目を向けた支援に明け暮れているのではないか。人殺しに手を貸している。貧困についてもそうだが、こうした軍事支援に対して、野党は事実上、沈黙している。一般の国民にはそうとしか見えない。

＜内政は国民救済の大軍縮・大減税・43兆円中止が天の声＞

返す返す悔やまれる一点は、霞が関に気骨ある官僚が姿を消してしまったことにある。菅義偉と安倍晋三の悪知恵の成果だ。官僚人事を官邸が独占したことで、戦前志向の国家主義派を中枢に置いたことによる。ブレーキの利かない霞が関が、宏池会など自民党内の護憲レベルを排除した。そのツケが今も続く。

いまだに菅をよいしょする御用記者が存在する。官房機密費の効果がまだ生きている証拠だ。TBSの山口強姦魔だけではない。

「国民の合意を政策に反映させる」という中道主義が、今の平河町や信濃町にもない。恐ろしい時代は10年以上続いてきている。その結果である「日本の貧困」に目を向けない永田町を国民は怒り狂っている。岸田外遊の暇があれば、1%に大増税して庶民大衆に対しては、大減税を実施する。消費税は廃止する。大軍縮43兆円の人殺し計画を中止すればいい。

バイデンであろうが、トランプだろうが、日本の立場をはっきりと主張する自主外交が、当たり前前の外交の基本である。右顧左眄は敗北外交である。

<岸田霸道外交で戦争拡大の愚>

岸田外交を俯瞰すると、深刻な過ちを犯しており、それが国際社会を危機に陥れていることが理解できるだろう。戦争中止にウクライナもイスラエルも尻込みしているのではないか。結果的に戦争の長期化と拡大で、世界経済を混乱させ、人々の生活と命を奪っているのではないか。第三次世界大戦を印象付け、死の商人や人口削減派を喜ばせている。

14億人の中国孤立化に特化する日本政府に対して、ワシントンは小躍りしているが、東アジアの不安定化による戦争危機を将来させている。これは邪道・霸道である。

霸道外交は自らの首を絞める。日本国民を地獄へと招来させる悪の外交であって、到底平和を欲する国民を納得させることは不可能である。自公政権は、国民のための外交ではない。国民と野党の覚醒が不可欠であろう。

2024年7月12日記(茅野村の憲法仙人・日本記者クラブ会員・外交評論家)

(時事) [岸田文雄](#)首相は7月10日から5日間の日程で米国とドイツを訪問する。[林芳正](#)官房長官が7月9日発表した。ワシントンで[北大西洋条約機構\(NATO\)](#)首脳会議にインド太平洋のパートナー国として出席し、安全保障協力の強化を確認したい考え。日本とNATOで情報をやりとりする専用通信回線設置で合意する方向で調整している。ベルリンではショルツ首相と日独首脳会談に臨む。

本澤二郎の「日本の風景」(5221)

<遂に米国債売却の勧め浮上＝円激安・超物価高解消策>

経済評論家の植草一秀が、月刊誌「紙の爆弾」8・9月号で正直な意見を述べた。いわく「日本政府は米国債を売って危機を逃れるしかない」という趣旨だ。

アベノミクスは、いうなれば日本軍国主義の本格的な復活を目論んだ、極右・A級戦犯勢力の危険すぎる悪魔人間による破憲の悪法である。違うだろうか。

戦争犯罪人・日本ゾンビの野望実現の策略といえる。基軸通貨米ドルをまねた円紙幣の刷りまくりによって、日本円を意図的に低下させる。円激安による財閥企業の輸出増・超株高・消費税二重取りによる暴利作戦である。反対に庶民大衆は物価の急騰と消費増税によって、四苦八苦の窮乏生活を強いられてきた。それも10年。悲劇的な悪政から抜け出す手立ては何か。この時点では記録的円安下で、地獄への道へまっしぐらな庶民救済策が、米国債の売却である。

<「50兆円利益と円安是正」植草一秀の正論>

日本は米国債を腐るほど買わされてきた。「属国日本の証」として国際的負の評価を受けてきている。米国債保有国の2番手が中国だが、ここにきて売却して経済危機乗り切りに必死のようだ。日本も米国債を売れば、円激安と超物価高の危機救済策となろう。

植草によれば「50兆円の利益と円安是正」と断じている。

敗戦後の日本の不思議は、今でもワシントンの属国に甘んじている点にある。古参の自民党秘書は「日本はワシントンのポケット」と揶揄して恥じない。日米関係を理解していない若者は、首をひねるような話のだが、間違いなく日本は米国の財布である。米国債保有世界一こそが、それである。安倍晋三という神道・日本会議の、不気味なカルトの極右政策による日本沈没を回避するためには、米国債を手放す好機であろう。

「50兆円を全国民に均等配分すると、ひとり40万円」という。これは直ちに断行する価値がある。国会は決断する時であろう。そのためにも自公政権を解消・打倒しなければならない。

<独立日本の証＝自立する日本＝東アジアに平和と安定>

米国債の売却は、連動して日米安保破棄への道だ。沖縄救済策でもある。日本外交の足かせを解消するのである。日本国憲法は中立国・日本を想定している。独立国・日本への道でもある。

米国を含め世界各国と対等の国になる。こんなに素晴らしいことはないだろう。「ワシントンの犬」との悪評も消える。国際社会から信頼される日本である。

中曽根派や福田派という右翼派閥に所属した亀井静香でさえも、日米安保破棄を唱えている。ロシアから北方領土返還も実現するだろう。もちろん、日朝国交正常化を実現して、問題の拉致問題を1日で解決する。

米国債売却の政治的経済的効果は絶大である。日中両国が米国債を手放すと、ドルが急落する。ワシントンの野放図すぎる財政による転落回避に歯止めがかかるだろう。一石二鳥どころか三鳥である。真っ当なアメリカ国民は喜んでくれる。

<戦前回帰忌避＝安倍(A級戦犯)・清和会政治退治＝財政法4条厳守で軍国主義戦争を阻止>

戦争ほど悲惨なことはない。戦争ほど残酷なことはない。人を殺す政治は、地獄の悪魔政治である。これの妥協は許されない。

安倍・A級戦犯継承勢力を木っ端みじんに征伐することが、日本が二度の過ちを犯さない最低のカンヌキとなる。おわかりか。安倍派の裏金追及と統一教会退治は、そのためである。戦争阻止のための必死の闘いなのである。

忘れないでほしい。戦争阻止の物理的な歯止めが財政法4条だ。憲法9条とリンクしている。戦後の平和体制の日本の証である。国債発行に厳しい歯止めをかけることで、死の商人の野望である戦争体制・武器弾薬製造を物理的に阻止する。これを破壊しようとして、財務省を徹底攻撃をする愚かな政党政治屋がいることを忘れてはならない。騙されている市民運動家もいる。

日本国憲法と財政法が、平和国家・日本の国際的公約である。A級戦犯勢力が最も嫌う日本のカノキである。何のことはない、アベノミクスなど安倍内閣10年の野望は、この二つのカノキを外そうという悪魔政略であった。

幸い9条は堅固だ。財政法も、43兆円もいふなれば、財政法破壊を目的にしている。国債発行を許してはならない。43兆円阻止が喫緊の課題である。戦争党に変身した自民・公明・維新を打倒することが、平和を願う日本国民の使命・責任である。

まずは当面する危機解消のために、米国債売却を政治の舞台に引き上げればいいだけのことである。国民の覚醒を！

2024年7月11日記(茅野村の憲法仙人・日本記者クラブ会員・政治評論家・暴力団追放国民会議)

[ニューヨーク 19日 ロイター] - 米財務省が19日発表した1月の対米証券投資統計によると、海外勢の米国債保有額は8兆0200億ドルと、過去最高だった昨年12月の8兆0600億ドルから減少した。ただ、保有額トップの日本は持臨みたい高を拡大した。また、海外勢の米国債保有は前年比では8.6%増加した。日本の保有額は1兆1530億ドルで、12月の1兆1380億ドルから増加し、2022年8月以来の高水準となった。中国の保有額は12月の8163億ドルから7977億ドルに減少した。英国は7535億ドルで、過去最高だった12月の7537億ドルからわずかに減少した。米10年債利回りは1月に3.899%で始まり、月末時点では3.965%だった。12月は米連邦準備理事会(FRB)の利下げ見通しが織り込まれる中、大幅に低下していた。